

温帯低気圧による大雨 東北町に大きな爪痕残す



台風第9号から変わった温帯低気圧が青森県を通過し、8月10日までの大雨で下北や上北地方を中心に大雨となり、各地で河川のはん濫や土砂災害が相次ぎました。町では、小川原湖に近い七戸川（高瀬川）の堤防が一部決壊し、間手場周辺が大規模冠水となりました。

写真上：町から要請を受けた国交省、農水省の排水ポンプ車による排水作業が連日昼夜問わず実施され、8月16日には間手場周辺の冠水していた水田が見え始めてきた（ドローンで撮影）

写真下：8月10日、大雨により決壊した堤防（左）。決壊した堤防の近くでは、道路が通行止めとなったほか、水田ほ場整備工事の重機数十台も被害を受けた（右）

